

## 第2回芭蕉翁生家保存改修検討委員会議概要

■日 時／ 平成31年2月20日（水）午後1時30分～

■場 所／ 会議室201

■出席者／委員

学識経験者	菅原 洋一	三重大学名誉教授	出	委員長
	福井 健二	公益財団法人伊賀文化産業協会前専務理事	出	
伊賀市文化財 保護審議会委員 を代表する者	滝井 利彰	伊賀市文化財保護審議会委員	出	
公共的団体等を 代表する者	廣澤 浩一	一般社団法人伊賀上野観光協会	出	副委員長
	岡島 久司	公益財団法人芭蕉翁顕彰会	出	
地元住民を代表 する者	安場 豊	上野東部地域住民自治協議会理事 (上野赤坂町自治会長)	出	

### 関係部署職員

[伊賀市文化財課] 笠井課長

[伊賀市建築課] 宮田副参事、森下主査

### 事務局

[伊賀市企画振興部] 宮崎部長、東次長

[伊賀市文化交流課] 滝川課長、藤田主幹、松本主任

### ■内 容

- 1 今後の活用について
- 2 スケジュールについて
- 3 その他

## ■概要

### 1 今後の活用について

- ・整備後の施設管理・活用の主体は文化交流課
  - ・常駐職員の配置等の直接の運営については、委託も検討予定。
- 生家の公開・活用の目的について
- ・生家の公開・活用の大きな目的は、伊賀上野の町屋そのものや町屋での生活が理解できるような施設とすること。そして、芭蕉にゆかりの屋敷であるということ。
  - ・基本的には、建物・庭を観て芭蕉への想いをめぐらせてもらう。
  - ・市内にある松尾芭蕉ゆかりの施設である蓑虫庵・俳聖殿・芭蕉翁記念館とのつながりも持たせる。
- 建物の公開について
- ・土間回り及び店・中の間・座敷の3室を公開。店・中の間・座敷の3室は、公開し上がってもらえるようにする。
  - ・つし2階の部分は非公開。
  - ・土蔵で展示をする場合は、1階西側の大きい部屋を使用し、東側小さい部屋及び2階は管理用スペースとする。
  - ・釣月軒は、狭い建物なので畳まで上がらず、土間から観れるようにする。
- 管理について
- ・管理用スペースは、今のままでよい。
  - ・現代的な水道・電気等の設備は管理上必要であるため、体裁を整えて設置。
  - ・冷暖房は、管理人用の部屋のみ設置。
  - ・火災報知器・警報装置等管理上必要であるものも設置。
  - ・調度類については、必要ないものが集まっているので整理する。
  - ・建物に付属している便所は、昔のトイレについて知ってもらう展示とし、実際に使えるようにはしない。
- トイレについて
- ・トイレの大きさは最小限でよい。
  - ・みんなのトイレのみを設置し、機能をしっかりと充実させる。
  - ・この敷地は文化財として史跡の登録を受けているため、敷地内にトイレをつくることは望ましくない。近隣でトイレ用地を確保できるかどうか事務局で検討する。
- 外回りの整備について
- ・屋敷と土蔵の間は、きちんとした庭として整備。
  - ・釣月軒の西側については、トイレの関係もあるため検討は保留する。
- 貸館について
- ・貸館はしない。(建物自体を味わってもらうことを前提とするため)
  - ・市主催事業で全館使用はよい。
- 句碑のある西側出入口について
- ・管理できないので閉めていたほうがよい。管理用門扉とはしないほうが良い。

- ・江戸後期の町屋として史跡に登録されているため、句碑・門があるのは不自然。
- ・史跡としての価値を損なわないようなやり方であれば、再整備する可能性もあり。

## **2 スケジュールについて**

- ・平成31年3月20日 午後1:30～

第3回検討委員会 【議題】耐震調査の結果を受けた平成31年度の設計仕様等の検討

平成31年4月 設計業務契約事務手続き開始

平成32年3月末までに 設計業務終了予定

平成32年4月以降 工事着手予定

- ・平成31年度の検討委員会は随時開催予定。

## **3 その他**

- ・生家土蔵の「鼓繫ぎのなまこ壁」は全国的にめずらしい形のもの。  
伊賀独特のものと考えられ、大変貴重なものなので残していただきたい。